

小学校 生活

事例 1

1 学年 「いきものとなかよし」

本時の目標：自ら生き物の存在に関心を持ち、虫に合わせた世話をする中で、虫が変化していることや、生命をもっていることに気付き、親しみをもって生き物と関わっていくことができる。

思いや願いのもとに学習し、気付きの質を高める学習の充実

- 本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿
 - ・他者の気付きを聞き、自分の気付きと関連させて、生き物についての学びを深めようとする姿
 - ・思いや願いのもと学習方法を自分で選び、活動後に振り返って、自分の活動ができたかどうかを確認する姿



こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

飼っている虫を見る、本を見る、カードを見直す、1人1台端末で動画や静止画を探すなど、思いや願いのもとに個別学習。

- 前時までの虫の世話について、気付いたことを児童が話し合ったり発表したりする中で、似ているところ、違うところなどを教師が問い、気付きを関連させる活動を設定した。
- 児童が更に詳しく知りたいと思ったことを、自分で選んで自由に調べるグループ内での「個別学習」の時間を設定した。虫をよく見て動きを調べる児童、これまでの観察カードを見直す児童、友達と話し合う児童、使いたい本を見て調べる児童、ICTを活用して虫の動画や静止画を検索して調べる児童など、自分の思いや願いのもとに活動することができた。

事例 2

1 学年 「なかよしいっぱい だいさくせん」 ～つうがくろでみつけた～

ICTの活用

通学路を探検して見つけたことについて、ICTを活用して発表し、思考ツールを使って分類、気付きを振り返った実践。発表の際には、選んだ場所の個々の気付きを、絵で表す、インタビュー動画を見せる、静止画に自分の思いを描き足すなどの方法でまとめて伝えた。個々の気付きの振り返りから、自分たちが安全にすごせるように見守られているという全体への気付きへとつながった。



事例 3

2 学年 「うごくうごくわたしのおもちゃ」

学習過程の工夫

身近にあるものを使って、動くおもちゃを作る活動において、児童の思いや願いを大切にして活動につなげた実践。教師が丁寧に問うことで「まっすぐ進むようにしたい」「もっと速くしたい」など、よりよく動くようにしたいという児童の思いや願いを引き出した。その実現のために「数を増やしたらどうか」「重くしたらどうか」「大きさを変えたらどうか」「よく動く友達に聞いてみたい」など、児童自身が方法を考えて活動した。活動後、結果をワークシートへ記入し、活動を振り返った。



友達に聞きながら、粘り強く修正。

小中学校 総合的な学習の時間

事例 1・2

自らの考えを明確にもち、他者からの意見を基に自らの考えを改善する学習の充実

小学校 6 学年「ふるさとPR大作戦」

本単元のねらい：人口減少や観光客の減少の問題を抱える地域が活気づくように、地域活性化のための取組を調べたり、情報を発信したりする活動を通して、まちづくりに取り組む人々の思いや願いを理解し、持続可能な地域の在り方について考え、地域の一員として進んで行動しようとする。

1人1台端末を活用し
ポイントを発表



○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・地域をPRするパンフレットの内容について、友達からの意見を基に更によりよいものにしようとして改善していく姿

中学校 3 学年「提言しよう 私の意見 -SDGsを通して白州の未来を創る-」

本単元のねらい：SDGsを視点に地域活性化への思いを提言する活動を通して、地域の方々の思いを理解し、持続可能な社会の実現に向け必要なものを考え、実生活の問題解決に進んで関わろうとする。

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・提言の内容をよりよいものにするために、友達や教員等他者からの意見やアドバイスを基に、内容や計画の修正を検討し、今後の見通しをもち、課題を明確にしている姿

こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

内容や計画を再検討する。



「考えるための技法」を活用し、協働して問題を解決したり、分析、まとめ・表現したりする。その際に「思考ツール」を用い、考えを整理させたり視覚的に捉えさせたりする。

また課題解決の過程の中で、他者からの意見やアドバイスをもらう中間発表会などの機会を設定する。他者からの多角的な考えにより、**自らの考えを修正し、目的意識や相手意識をもち内容や計画等を再設定・改善**していくことにつなげる。成果物の作成に向け、検討した計画を基に様々な方策で課題解決を進めていく。

【整理・分析】において

- ◇自分の考えをもつ
- ◇考えを整理する
- ◇考えを視覚的に捉える
- ⇒「思考ツール」の活用

【まとめ・表現】において

- ◇成果物の作成
- ⇒目的意識・相手意識を
もたせる

◇中間発表会の実施

- ⇒他者からの意見・アドバイスを基に、**自分の考えを改善**する

事例 3

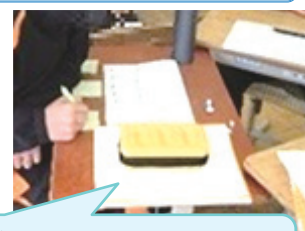
中学校 3 学年「将来の生き方について考えよう」

見通しと振り返りでメタ認知を育成していく学習の充実

3年間の総合的な学習の時間や様々な学びや活動を振り返り、自己を見つめるとともに、更なる成長と将来の生き方を追究する。

見通し（ゴールイメージとプロセスイメージ）をもたせ、活動の意味を捉えさせながら、課題解決を進める。振り返りでは課題解決に向けた過程の中での自らの状況を捉えさせる。**目的意識を明確にもたせ自己評価を繰り返す**ことでメタ認知を高めていく。

学習過程の工夫



友達からのアドバイスを基に、
これまでの自分を振り返る。